編集・発行:
大阪大学大学院人間科学研究科・人間科学部
国際交流室（大谷順子 教授、安元佐織 准教授、深津尚子 事務補佐員）
〒565-0871 吹田市山田丘1-2
（Tel&Fax）06-6879-4038

Editors and Publisher
Office of International Exchange
School/Graduate School of Human Sciences, The University of Osaka
Prof. Junko Otani, Assoc. Prof. Saori Yasumoto, Administrative
Assistant Naoko Fukatsu
Adress:1-2 Yamadaoka. Suita, Osaka,
565-0871 JAPAN
（Tel&Fax）+81-6-6879-4038

OIE Bulletin の
作成に興味のある
方は国際交流室に
ご連絡ください！



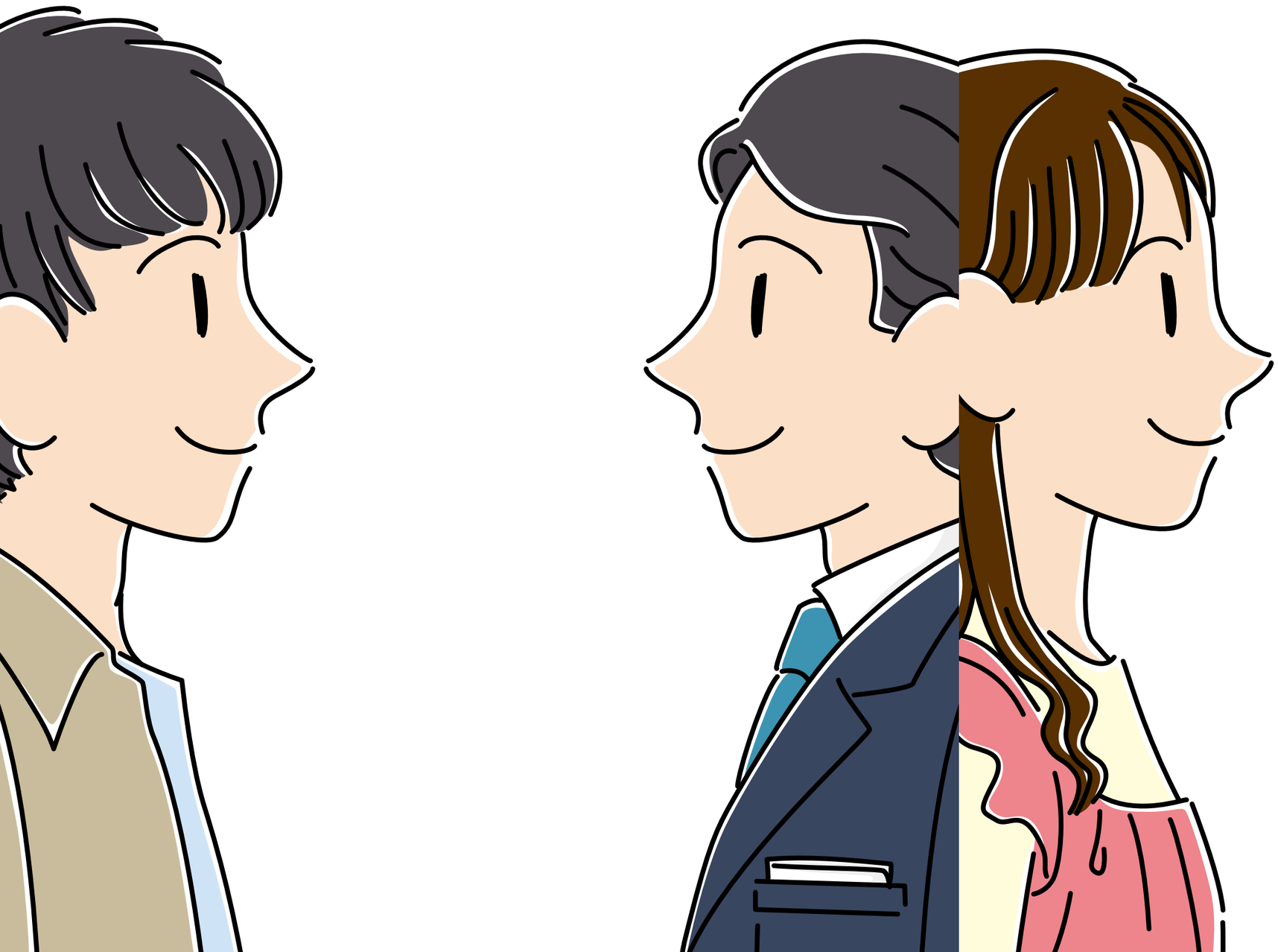
人科生のための国際交流ガイドブック

OIE Bulletin

2026
vol.23







未来につながる国際交流

未来につながる国際交流

大学で出会う世界中の友人、
外国で出会う楽しい出来事、辛い出来事
その全てが未来の私を形づくる。

Your career is a creative process.
A career is something you creat!



ナマケモノの
ダ～ラちゃん





世界を飛び回るツバメの
チュンくん

目次

留学したい人向け

<大学を通じて留学>

○ 大学間交換留学 …… P.3
○ 部局間交換留学 …… p.4
○ どこが違うの？
　大学間･部局間交換留学 …… P.5
○ 博士課程での交換留学 …… P.6

<自分で留学>

○ 私費留学(フォルケホイスコーレ) …… P.7
○ 語学留学+ワーキングホリデー …… P.8
☆ 色々ある留学の方法 …… P.9
☆ 留学した人の進路は？ …… P.11







国際交流が気になる人向け

<授業>

○ 学部英語コース
　留学生にインタビュー！ …… P.13

<生活>

○ 留学生と暮らす国際経験
　グローバルビレッジ …… p.14
○ 人科生向け多文化交流グループ
　SOUP …… P.15
○ 大学内での国際交流
　B.S.P. / 多言語カフェ / 国際交流パーティ …… P.16

☆ 人科の先生方からのメッセージ…… P.17



スケジュールバッチリねずみの
チュータくん

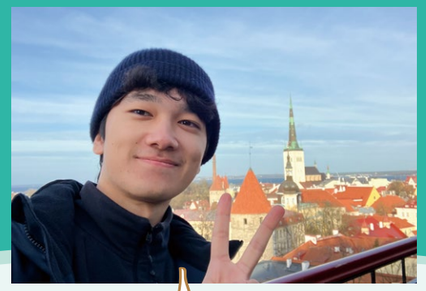


作成メンバー



井上彩希、河本昇磨、北山あい、小林萌(五十音順)

大学間交換留学



河本 昇磨さん
フィンランド
3年生8月～4年生6月

①留学先はどんなところ？
フィンランド南西部の都市トゥルクにあるオーボアカデミー大学に留学しました。自然豊かで落ち着いた雰囲気の町で、キャンパスの周りにも森や海が広がっています。

②留学に行った理由は？
はじめは漠然と海外に長期間行ってみたいという思いがありました。自然ツーリズムや環境政策に関心があり、サステナビリティ先進国であるフィンランドで学びたいと思いました。日本とは異なる自然との関わり方を現地で体験することで、今後の研究や将来の進路にも生かせると考えました。



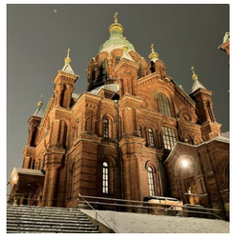
③なぜその留学形態にしたの？
留学先の選択肢が多く、単位互換ができる点から大学間交換留学を選びました。費用を抑えられる点も魅力でした。

④留学前後の自分の変化はあった？
留学前は「海外で生活するなんて、自分にはハードルが高い」と思っていました。でも実際に行ってみると、意外と“普通の生活”がそこにありました。日々を通して、海外が特別な場所じゃなく「次にまた行ってみたい身近な選択肢」に変わりました。今は、新しい国や人との出会いにワクワクできるようになったのが一番の変化です。

⑤どんな授業を受けてたの？
日本より少人数で、ディスカッションを多用する授業が多い印象でした。人数が少ない分、先生にフランクに質問できる機会があるのも特徴的です。フィンランドの芸術や建築という授業では、実際に教会や美術館に行って行う授業もありました。

⑥印象に残っているエピソード
留学初日に寮の自分の部屋に入った際、オートロックなのを知らずに鍵を中に入れたまま閉めてしまいました。スマホも中にあったので何もできずに「終わった…」と思っていましたが、下の階にいたフィンランド人（別の留学生のチューター）に助けを求めて管理会社に電話してもらい事なきを得ました。それをきっかけに仲良くなりました（笑）

⑦カルチャーショックはあった？
冬が暗い！日照時間が5時間くらいしかありません。しかも太陽が真上に来るわけではないのでそこまで明るくありません。この期間が4、5か月くらいありました。



⑧やっておけば良かったことは？
- 味噌や出汁などの食材を少し持っていく
- 「うまくいかなくても大丈夫」という気持ちを持つ
- 日本のアニメを観ておくと話題につながりやすい






部局間交換留学



井上 彩希さん
スウェーデン
3年生8月～4年生6月

①留学先はどんなところ？
スウェーデン南部の地方都市で、湖など自然に恵まれた場所。比較的新しい大学で、多様性や環境の持続可能性を大切にしている大学でした。

②留学に行った理由は？
海外で生活する経験を絶対にしたくて、それを実現するには大学のうちの留学が最適だと思ったからです。

③なぜその留学形態にしたの？
費用面から、私費留学の予定はありませんでした。大学2年の夏頃、IELTSを受けましたが、スコアが低く留学そのものを諦めようとしていました。結局留学を諦めきれず、申請だけでもしてみようと英語のスコアがいらない部局間留学に申請しました。

④留学前後の自分の変化はあった？
スウェーデンの福祉政策などを身近に感じながら生活して、よりリベラルになった気がします。ある意味、日本での生きづらさを余計に感じることも増えたかもしれません。

⑤どんな授業を受けてたの？
人文学、社会学の分野からはほとんどの授業を選ぶことができました。面白かったのは、スウェーデンのレジャーやアウトドア文化を、実際に体験しながら学べる授業で、湖でのカヌーや、スケートを体験できて楽しかったです。他には、興味のあった移民に関する授業を多めに受講しました。座学が少ない代わりに、読まなければいけない文献が多く、その知識を前提にグループワークやディスカッションがあるので緊張感がありました。

⑥履修の仕組み・日本と違うところは？
学期は4つのタームに分かれています。study paceという授業の大変さを表す指標があり、100%を超えるような履修は推奨されていません。私は、study pace が100%のものをそれぞれのタームで受講しました。一つの授業に集中できるし、期末のストレスが少なくて良かったと思います。

⑦カルチャーショックはあった？
最初のオリエンテーションで、ご飯が用意されていると言われていたので楽しみにしていたら、全部ビーガン用で正直あまり美味しくなくてショックでした。後々友だちが増えると、ビーガンの子もムスリムの子もいたので、スウェーデンでは当たり前の配慮だったんだなと思いました。

⑧やっておけば良かったことは？
福祉施設や教育機関をもっと事前に調べて訪問すれば良かったなと思います。研究分野を哲学系か社会学系かで迷っていたこともありますが、留学中は社会学系を全力で学ぶ、と決めてしまっても良かった気がします。









どこが違うの？大学間・部局間留学

大学間

1年生

国際交流室に行ってみよう!
面接には事前の連絡が必須です!
(oie-core@hus.osaka-u.ac.jp)
英語の試験の準備も始めるとgood!

出願!
大学に申込書類を提出!
ここまでに余裕をもって英語スコアを取っておこうGPAの確認も忘れずに

2年生

夏
奨学金の締切りが集中する時期。見逃した!なんてことがないようにKOAN等をこまめに確認しよう

秋
交換留学先の選考結果が届く



冬

3年生

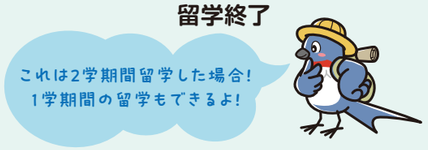
春
ビザを申請、海外保険加入、現地の住む場所を決めるなどやることはたくさん

夏
留学開始

4年生

春

夏
留学終了



主な特徴

- 大学の選択肢が多い
- 多くの大学が一定レベルの英語スコアとGPAを求める
- 申請できる奨学金が多い



部局間

部局間協定校は
世界各地に13校あるんだって～
その中でも英語で学べるのは
スウェーデンのリンネ大学とアメリカの
ジョージア州立大学の2校だよ～



語学スコアとGPAが考慮される大学もあるので余裕を持って準備しておこう

留学希望者の事前調査奨学金の申込を始めよう

出願!
交換留学先に申込書類を提出!

ビザを申請、海外保険加入、現地の住む場所を決めるなどやることはたくさん

留学開始



留学終了

留学お役立ち情報☞
(JASSO)

主な特徴



- 大学の選択肢が少ない
- 人科の先輩が毎年行く＋相手校からも学生が毎年来るので情報が得やすい
- 大学間交換留学が叶わなかった人も再挑戦できる

博士課程での交換留学

藤阪 希海さん
台湾
2025年9月～2026年6月(予定)



①留学先はどんなところ?

国立台湾大学は、日本統治時代に臺北帝國大學として設立された総合大学です。大規模な図書館にはシアタールームや自習室などの設備が充実しており、中国語に加えて英語・日本語・韓国語の書籍も豊富です。



②なぜ留学に行ったの?

留学を決めたのは、日本の教育社会学が西洋理論に強く依存していることへの違和感や、日本社会に内在する暴力性を別の視点から見直したいと思ったことがきっかけでした。アジアの中で日本がどのように語られているのか知りたいという思いもありました。また、超域イノベーション博士課程プログラムにより学費が免除されている期間内に交換留学をすれば、費用を抑えられると考えました。

③どんな授業・研究をしているの?

授業を履修する傍ら、超域イノベーションプログラムからの補助を得てフィールドワークへ行ったり、現地の院生に勧められた学会に足を運んだりしています。こうした機会を通じて、日本では出会えなかった研究者や学生と関わり、自分の研究を位置付け直す機会が得られました。特にポスドクなどを考えている人にとっては、今後研究拠点としたい大学や地域に留学することで、今後のキャリアに必要なつながりも得やすいと思います。

④授業や生活の様子は?

私が受けている授業は1コマ60分で、2～3限続けて行われています。事務作業と研究発表準備に加えて、中国語の勉強が増えた程度で、生活自体は日本での生活とほぼ同じです。

⑤日本での研究内容は?

専門は教育社会学で、学校教育の暴力性を研究しています。特に、良かれと思って行った教育が、子どもの傷つきにつながる問題(マルトリートメント)に関心があります。

⑥カルチャーショックはあった?

聞き返すときに『は?』と言われること。最初は怒られているのかと思い委縮しましたが、単なる文化の違いだと気付きました。

⑦どんなところに住んでるの?

大学の寮に住んでいます。困ったときはロビーに行けば、誰かに助けてもらえます。

⑧費用・物価は?

外食は日本より安いので、気軽に食事に出かけられます。それ以外の日用品は日本と同じくらいか、やや高い印象です。日本の100円均一の系列店もありますが、商品は300円程度で販売されています。









私費留学（フォルケホイスコーレ）



柄谷 彩景さん
デンマーク
3年生8月～4年生6月

①留学先はどんなところ？

デンマーク･ユトランド半島とドイツとの国境近くにある、北欧独自の教育機関「フォルケホイスコーレ」。人生を見つめ直す場として18歳以上なら誰でも入れる学校です。テストなどは基本的になく、生徒は学校の寮で共同生活をします。

②留学に行った理由は？

10歳の頃に行ったフィンランドの自然と都市の調和具合に惹かれ、北欧に興味を持つように。自分の成長の機会として、留学に行くことにしました！

③なぜその留学形態にしたの？

もともと交換留学を目指していましたが、英語の点数が足りず…北欧留学で探していたところ、フォルケを発見。学問や語学よりも現地の暮らしや人との交流がしたかったためフォルケ留学することにしました。

④留学先では何をしたの？



デンマーク語や陶芸、編み物、カヤック、セーリング、ガーデニング、バレーボール、心理学などを学びました。

⑤印象に残っているエピソード

24時間電車でイタリアに修学旅行に行った際、電車が遅延し、急遽全員でタクシーでスイスへ。そこで一泊して予定とは異なる電車でデンマークに帰り、合計38時間ほどかかったこと。

⑥留学先での一日の様子

8:30 起床・朝ごはん
9:00 モーニングアッセンブリー
(歌を歌って先生の講義を30分受けます)
授業（2時間）
1時間ごとに15分ほどの休憩あり。コーヒーや紅茶を飲みます。
18:00 夜ごはん
～hyggeタイム～
共通スペースで毎日食べられるスイーツを食べながらくつろいだり、ボードゲームをしたり。
毎週土曜にはパーティーもあります。





⑦カルチャーショックはあった？

デンマークには背が高い人が多く、女子でも180㎝代がたくさんいたこと。

⑧留学前後での自分の変化は？

自分の人生について、型にはまらないより開けた考え方をするようになったこと。言語が通じないことへの恐れが減ったこと。

⑨物価は？

スタバのフラペチーノが1400円する。昼にお店でハンバーガーを食べると3000円を超えるほど。







語学留学+ワーキングホリデー



中辻 千紘さん
カナダ：トロント
3年生8月～3年生3月

①なぜその留学形態にしたの？

海外のスターバックスで働きたかったから！



②留学に行った理由は？

多種多様な価値観の中で働いて、自分の世界を広げたかったからです。また、社会人になったら長期的に休みを取ることは難しくなるし、大学生の間に経験したかったので行きました。

③留学先の良いところ

カナダ･トロントは治安がよく、多様な人が暮らしているため色々な国のご飯が食べられます。人が優しく、海や緑など自然も豊かです。

④印象に残っているエピソード

仕事を探していた時に、たまたま日本人の店員さんに出会い、それがきっかけでスタバで採用してもらいました！

⑤カルチャーショックはあった？

電車やバスに乗る前に並ばないこと、ホームレスが思ったよりも多いこと、トイレが汚いこと、コンビニがないこと。

⑥一日のスケジュール

＜学校がある時＞
8:30～13:00
学校
その後はヨガに行ったりカフェに行ったりしていました。

＜働いていた時＞
6～8時間ほど
働いていました！



⑦やっておいて良かったこと

日本にいる時から面接対策で英語の受け答えを用意していたこと。

⑧やっておけば良かったこと

行く前からもっと現地の知り合いを増やしておけば良かったです。
カナダなど寒い地域に行く場合は、冬前は避けた方が良かったなと後悔しています。冬前は仕事がなくなってしまい、苦労したので…。



⑨物価は？

マクドナルドのナゲットが1ピース100円くらいでした。スーパーの野菜やお肉など物によっては安いですが、外食すると1食3000円ほどするので基本的には自炊していました。









色々ある

留学の方法

項目ごとにチェック!







居住形態

一人で住んだり、費用を抑えるために誰かと住んだり。どこに住むかは留学生活に大きく影響します。自分の暮らしやすさや現地の人との交流など、色々なポイントから選んでみてください。

- **大学間&部局間**：留学先大学の寮など（キッチンやリビングが共用のところも多いです）
- **ワーキングホリデー**：シェアハウス、ホームステイなど（留学エージェントを通さない場合、自分で住むところを探す必要があります）。
- **私費留学**：留学先大学の寮、ホームステイなど



お金・費用

どの形態でも航空チケット代やビザ申請費、海外旅行保険への加入などが必要になってきます。大学間留学でも留学先によって異なるので要チェック!
また、様々な奨学金制度があります。これらを活用するとお金の不安がかなり軽くなります。

- **大学間&部局間**：大阪大学への授業料+生活費
- **ワーキングホリデー**：就職までの生活費
- **私費留学**：現地の教育機関への授業料+生活費（北欧など授業料無料のところもあります）



留学の期間・開始時期

欧米の大学は学期が8・9月始まり5・6月終わりのところが多く、学期の始まりに合わせて留学を開始することが多いです。ワーキングホリデーは現地の夏に行くと仕事が見つけやすいようです（→p.6）。短期研修プログラムは長期休暇中に開催されるものが利用しやすいです。

- **大学間&部局間**：9ヶ月程度
- **ワーキングホリデー**：1年
- **私費留学**：個人、参加方法による
- **短期研修プログラム**：1週間や10日間〜1か月



現地サポート・留学支援

- **大学間&部局間**：留学先大学のインターナショナルオフィスが主に相談に乗ってくれます。現地の留学生団体があるところもあります。
  阪大の国際部や人科の国際交流室も日本からサポートしてくれます!
- **ワーキングホリデー**：留学エージェント、海外旅行保険のサポートサービスなど
- **私費留学**：留学エージェント、現地の大学のインターナショナルオフィスなど



ビザの種類

学生ビザは申請等に留学先大学からの入学許可証が必要です!国によって時間がかかることもあるので要注意!

- **大学間&部局間**：学生ビザ
- **ワーキングホリデー**：ワーキングホリデービザ
- **私費留学**：学生ビザ



申し込み方法

- **大学間&部局間**：人科教務係に申請書提出
  →KOANをチェック!
- **ワーキングホリデー**：自分で申し込み（オンラインで申請できる国も多いです）
  →渡航予定国の大使館や総領事館のウェブサイトをチェック
- **私費留学**：自分で申し込み（現地の大学へ直接申請することが必要です）



英語レベル・GPAは?

大学への留学では、授業において英語や現地語のレベルに関して要件が設けられていることがほとんどです。また、奨学金申請の際にGPAの提出が求められることもあります。語学だけでなく、大学での勉強もしっかり行いましょう。

- **大学間&部局間**：（大学間）留学先大学での使用言語が英語の場合、阪大が定める語学能力要件を満たす必要があります。加えて、留学先大学の語学要件やGPAも満たしている必要があります。（部局間）特に設定がない大学もあります。ただし、応募者多数の場合は選考に用いられるので注意してください。
- **ワーキングホリデー**：設定はありません。ただし日常会話や生活に必要な最低限の語学力は必須になります。
- **私費留学**：大学先が設定する英語レベルや現地語のレベルを満たす必要があります。



休学は必要? 卒業は?

卒業の時期や留年するかなど、家族や研究室の先生ともよく相談しましょう!

- **大学間&部局間**：大学を通じての留学のため、阪大に在学している必要があります。留学先大学で取得した単位のうち、所属学部・研究科で認められた単位は、卒業要件単位に算入が可能です。卒業時期や論文執筆、単位取得状況によって4年で卒業することもできます。
- **ワーキングホリデー**
- **私費留学**：阪大への授業料納入は不要です。そのため、期間中休学届を提出することになります。阪大に在学中の留学ではないので留学先大学で取得した単位は卒業要件単位に算入できません。

卒業生に聞きました 留学した人の進路は？







留学を経験し、阪大を卒業した先輩方は
今どんなことをしているのか見てみましょう！

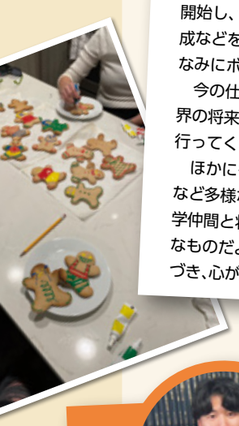


上野貴之さん

留学開始時期：学部４年
留学先大学：ジョージア州立大学(アメリカ)
業種・職種：人材・営業職(新卒段階)

私は留学直後に参加したボストンキャリアフォーラムでITメガベンチャーから内定をいただき、一般的なインターンシップや本選考といった就活プロセスは経験していません。当時、グローバルに働ける環境、大きな裁量、自身の企画力を磨けることを軸に入社し、1年半働いたのち、より個人としての力をつけたいと考えて人材系へ転職しました。米国留学中に社会学を学んだ経験は、社会の流れを多角的・メタ的に捉えながら市場を分析し、議論する現在の業務にも活かされています。

また、留学によって進路の選択肢が大きく広がったと感じます。留学前は商社就職を主に考えていたものの、米国で個人の名前や実力で勝負する世界を体感したことで、企業の看板ではなく自分自身の価値で期待される道を歩みたいと考えるようになりました。





中島千宏さん

留学開始時期：修士２年
留学先大学：コペンハーゲン大学(デンマーク)
業種・職種：IT・営業職

私は留学中に現地からオンラインで就活を進めました。具体的には、2023 年 8 月に留学を開始し、12 月までは就活エージェントへの登録や先生・友人への相談、学生支援室での ES 作成などを行い、2024 年 1 月からエージェント経由で紹介された企業の選考を受けました。ちなみにボスキャリは、少し検討しましたが参加しませんでした。

今の仕事を選んだ理由としては、留学先のデンマークが IT 先進国であったことから、IT 業界の将来性を強く感じて志望を絞ったこと、そして内定先の企業が座談会や個別相談を丁寧に行ってくれ、自分に合いそうだと感じられたことが大きいです。

ほかにも留学中に進路について考えさせられる出来事がありました。授業には子育て中の人など多様な背景を持つ仲間がおり、進路は一人一人違っていいということを実感しました。留学仲間と将来について真剣に相談し合えた経験も大きく、先生の「キャリアはクリエイティブなものだよ」という言葉によって、就職か進学の二択ではなくもっと幅広い選択肢があると気づき、心が楽になりました。



中辻洋輔さん

留学開始時期：学部４年(５年目)
留学先大学：リンネ大学(スウェーデン)
業種・職種：コンサルティング

私は留学中にロンドンキャリアフォーラムに参加しました。ただしフォーラム会場には行かなかったため、雰囲気はよく分かりません。ロンキャリの基本的な流れとしては、ロンキャリの公式 HP に参加企業一覧と募集要項が掲載されており、そこから応募します。また、ロンキャリ向けのオンライン説明会もあり、そこで企業と接点を持つこともできます。選考フローは企業によりますが、多くの場合、書類審査や面接があります。

私が内定を得た企業では、ES→Web テスト→一次面接(ケース)→二次面接(録画の英語面接)→最終面接→ディナー選考（食事をしながら会社の方と交流できる場）→内定という流れでした。応募時期によって現地で選考を受けるか事前にオンラインで済ませるかが変わり、私は 2 月中旬頃に応募したため、現地ではディナー選考のみで、その他の選考はすべてオンラインでした。荷物にはなりますが、就活年度に留学する場合はスーツを必ず持っていった方がいいと思います。

現在コンサルタントとして働くうえで、留学経験で得た英語力が特に役立っています。会社がグローバル企業ということもあり、英語を読む・聞く場面は多く、理解できて当然という空気があるため、留学で鍛えた力が大いに活きています。



西岡瞳さん

留学開始時期：学部３年
留学先大学：ジョージア州立大学
業種・職種：NPO・営業職

留学中の経験や出会いが選択肢を大きく広げ、進路への考え方そのものを変えてくれたと感じています。それまで公務員、企業就職、国内の大学院進学といった限られたルートしか考えていなかったところから、海外大学院への進学や非営利組織で働くこと、英語を使って仕事をすることなど、型にはまらず自由に考えられるようになりました。自分に素直でいよう、何度でも挑戦しなおせると自然に思えるようになった背景には、多様性を尊重する文化の中で学んだことや、授業や友人との会話を通じて「自分は何者か」「どんな強みや弱みがあるのか」「何をしたいのか」といった問いと深く向き合った経験が大きく影響しています。

大学院進学も検討しましたが、最終的には社会に出て経験を積みたいと考え、就職を選びました。就活は帰国後に行い、直接応募と就活エージェントの双方を活用して進めました。子供に関わる仕事に就きたいという思いは以前からあったものの、どのセクターで働くか迷っていましたが、留学中に多くのボランティアを経験したことで非営利組織への関心が高まり、活動に共感できる団体への就職を決めました。現在の仕事では、英語での資料作成やコミュニケーションのほか、物事を多角的に考える姿勢に留学経験が活かされていると感じます。



野尻真由さん

留学開始時期：学部３年
留学先大学：ウェズリアン・カレッジ(アメリカ)
業種・職種：総合商社・営業職

私が就職活動を始めたのは、かつて就職面接の解禁時期とされていた６月で、そのタイミングに合わせて面接を受け始めました。ただ、その約 1 年前から業界や企業について調べ始め、数か月前からは筆記試験の勉強をして準備をしました。現在の仕事を選んだ理由は、新しいことに挑戦し続けられる環境であると感じたから、そして、若いうちから海外拠点で働けるチャンスがあると感じたからです。

留学経験については、身につけた語学力が海外の方々とのミーティングや交渉の場で役立っているほか、異なる文化や価値観を受け入れる柔軟性が養われたことで、国際的な環境で働くうえでの基盤になっていると感じています。留学を迷っている方にはぜひ一度海外に出てみてほしいです。将来の可能性を大きく広げてくれる経験となるはずです。



山内雄斗さん

留学開始時期：学部４年
留学先大学：ジョージア大学(アメリカ)
業種・職種：製造、テクノロジー・経営企画職

私の就職活動は二段階で行われました。まず留学中にボストンキャリアフォーラムへ参加し、十数社を受けて IT 企業から内定を得ましたが、納得感が持てず、帰国後も継続するつもりでした。しかしコロナで急遽帰国したことで 2021 年卒向けの本選考に間に合うことになり、志望度の高い企業に絞って再び選考を受け、最終的に現在の会社から内定をいただき入社を決めました。現在は経営企画として海外調査や国際情勢の分析などを行っていますが、留学で培った英語力や異文化への理解は、海外拠点との議論や市場調査の場で大きく活きています。

当時は就職一本で考えていましたが、今では学ぶ時間の価値を実感し、社会人講座を受講しつつ、将来的な大学院進学も視野に入れています。これから留学する皆さんには、「自分を深く知ること」と「社会を知ること」の二つを意識してほしいと思います。留学では刺激的な経験を通して自分の軸に気づけますし、学生のうちに社会との接点（インターン、NPO 活動、OBOG 訪問など）を持つことで進路の視野が広がります。もし何か力になれることがあれば、いつでも声をかけてください。



森岡晃琉さん

留学開始時期：学部３年
留学先大学：ヘルシンキ大学(フィンランド)
業種・職種：金融・営業職

就職活動は、帰国後の夏から他の学生と同じように始めました。現在の仕事を選んだ理由は、日本の経済発展に貢献できる仕事がしたいという思いが強く、企業の成長を支えられる金融機関であれば自分のやりたいことを実現できると感じたからです。大学院進学等については特に考えませんでしたが、留学を経験したことで視野が大きく広がり、進路への考え方にもより柔軟さが生まれたと感じています。





学部英語コースの

留学生にインタビュー!!

学部英語コースとは

英語で学士の学位を取得できるコースとして人間科学コースが設置されています。このコースは、平成23年度からスタートし、世界各国から学生を受け入れています。1年生～4年生まで現在約50名が人間科学部で学んでいます。人間科学コースの授業科目はすべて英語で行われていますが、日本人学生も履修可能で、自由選択枠に算入することができます。

この2人に聞きました!



メイさん（インド出身）



アンドリューさん（カナダ出身）

Q. どんな授業を取っていますか?おすすめの授業があれば教えてください



私は、国際開発や多様性、教育に関する授業を中心に、日本美術や法律、メディア文化についての授業も履修しています。中でもグローバル・ヘルスや教育の授業は特におすすめです。実践的な活動を通して学ぶ機会が多く、とても充実した内容だと感じました。



日本語の授業と人間科学部英語コースの授業と、日本文化の授業を取っています。Sociology of migration の授業がおすすめです。



Q. 日本での留学を決めた理由、きっかけは?



日本の文化に以前から強い憧れがあり、これまでに何度か日本を訪れた経験もあって、そのたびに日本をもっと好きになりました。そうした経験が、日本で学びたいと思った大きなきっかけです。

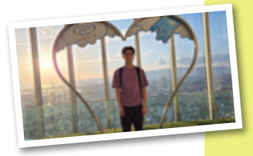
日本に留学したのは、日本の文化をきれいだと思ったのと、日本語が上手になりたかったからです。去年日本に旅行して、大阪は一番好きな街だったので大阪に住みたいと思いました。関西弁を話せるようになりたいと思いました。



Q. 日本で最も思い出深い経験は何ですか?



最も印象に残っている思い出は、秋に着物を着て京都を訪れ、清水寺を観光したことです。自然に囲まれた中で日本の文化や雰囲気を味わうことができ、とても美しく、特別な時間だったと感じています。





日本各地の観光と水泳部の部員との思い出が心に残っています。福井、神戸の景色がきれいだったし食べ物もおいしかったです。水泳部の部員は、優しいし知らないことがあったら手伝ってくれました。大阪弁を教えてくれたのが楽しかったです。「知らんけど」が一番好きな大阪弁です。



留学生と話したいと思っている学生に、何かアドバイスやメッセージをお願いします!



アドバイスは、「あまり迷いすぎないこと」です。ぜひ積極的に行動して、留学生との交流を思いきり楽しんでほしいと思います。



英語サークルとかBSPは留学生に会えるし、関わるのが簡単だと思います。留学生は、日本語の練習をしたいと思っているからランダムに話しかけられても嬉しいと思います。

留学生と暮らす国際経験!!

大阪大学グローバルビレッジ



グローバルビレッジ(津雲台寮)に住む人科生2人にインタビュー



白石さん（人間科学部3年）



ソギョンさん（人間科学部2年）韓国からの正規留学生

大阪大学の学寮の一つであるグローバルビレッジ(津雲台寮・箕面船場寮)では、グローバルな生活環境を提供することを目的としています。外国人留学生と日本人学生及び教職員が共同で生活する点が魅力の一つとなっています。



Q 一人暮らしですか?ルームシェアですか?ルームメイトがいれば、差し支えない範囲で、出身国を教えてください。

白石さん：日本人2人、インド人1人、中国人1人、ドイツ人1人、フランス人1人の計6人です。部屋は9人用ユニットになっています。

ソギョンさん：私は一人暮らしをしていますが、周りにはドイツ、ベトナム、フランス、アメリカなど、さまざまな国から来た友人が多くて、日々国際的な刺激を受けています。

Q グローバルビレッジ全体の雰囲気はどうですか?

白石さん：基本的に穏やかです。部屋単位で生活がなりたっているので、違う部屋同士の交流は少ないです。

ソギョンさん：グローバルビレッジはとても賑やかでフレンドリーな雰囲気です。英語だけでなく、世界中の言語が飛び交い、まさに多文化共生が感じられる環境でもあります。例えば、廊下でも4ヶ国語が同時に聞こえることもあります。

Q グローバルビレッジ内のイベントはどんなものがありますか?

白石さん：主なものとしては、学期の始めのウェルカムパーティーと学期終わりのフェアウェルパーティーがあります。また夏祭りやクリスマスパーティーもあるので、大体一か月に一回くらいの頻度で何かしらイベントが開催されています。

ソギョンさん：新学期のウェルカムパーティーをはじめ、映画鑑賞会や多国籍料理を楽しめるカルチャーデー、クリスマスパーティー、夏祭りなど、季節を感じられるイベントが豊富です。イベントを通じて、文化や宗教、食の多様性を肌で感じることができます。中には、学生自身が企画を提案して実現することもあり、主体的に参加できるのも魅力です。

Q グローバルビレッジに住んでいて楽しいことは何ですか?

白石さん：日本にいながら外国の友達をつくれることです。大体半期で留学生が帰国してしまうのですが、それと同時に新しい留学生がまた入ってきます。

ソギョンさん：一番楽しいのは、さまざまな文化や分野、宗教、言語圏の学生と交流できることです。例えば、先日は工学専攻のオランダの友人が英語で数学を教えてくれました。オランダでの数学教育に関しても話しましたが、とても勉強になりました。全く行ったこともない国の文化がわかるというのは、凄く勉強にもなるし面白いです。時には深夜まで議論が続くこともあり、学問的にも人間的にも成長を感じます

Q グローバルビレッジに住んでいて大変なことは何ですか?

白石さん：部屋の掃除の分担が大変です。ルームメイトが掃除をやっていないときは、ついイライラしてしまいます笑。トラブルにならないためにも、日ごろからコミュニケーションを取って信頼関係を構築したり、掃除担当を決めておく必要があると感じます。

ソギョンさん：大変なのは、交換留学生が多く、半年や1年で帰国してしまうことです。別れは寂しいですが、新しい仲間との出会いが常にあり、新学期になるといつも前向きな刺激をもらえます。別れた後もSNSで繋がってお互いの近況を報告し合えるので、世界中に友人ができるのも大きな財産です。

Q イベント以外にどんな国際交流がありますか?

白石さん：ルームメイトとご飯を作って食べたり、カラオケや旅行に行くことがあります。僕が帰省するのに合わせて、ルームメイトが地元に泊まりに来たこともありました。

ソギョンさん：イベント以外にも、共有キッチンで料理会を開いたり、一階のラウンジでゲームナイトをしたりと、日常の中で自然に国際交流が生まれます。特に料理会では、自国の味を紹介し合う中で、文化の違いを「味覚」で体験できます。ゲームナイトでは言語を超えて盛り上がる瞬間があり、毎回新しい発見があります。

Q グローバルビレッジはどんな人におすすめか?

白石さん：ずばり英語力をのばしたい人です。意外と英語でコミュニケーションを取る必要があるので、それをやろうという気概が何より必要です。あとは好奇心があって、大学生活を豊かにしたい人です。グローバルビレッジで生活するからこそ得られる経験と素敵な出会いがあるのではと思います。

ソギョンさん：英語力を伸ばしたい人、大学生活をより充実させたい人に特におすすめです。多文化に触れ、国際的な視野を広げる絶好の機会になります。ここでの生活を通じて、自分の価値観がどんどん広がっていくのを感じます。将来、海外留学や国際的な仕事を目指す人にとって、間違いなく大きな一歩になると思います。

「プロジェクトSOUP」は、Share Our Unique Perspectivesの頭文字をとった言葉です。人科国際交流室が人間科学研究科の学生に部局内外での多文化交流の場を提供することを目標に人科生と立ち上げたコミュニティです。主に下記の4つの活動を通して、学内での学びと社会を繋ぐPublic Sociology（公共社会学）の実現を目指しています。

英会話

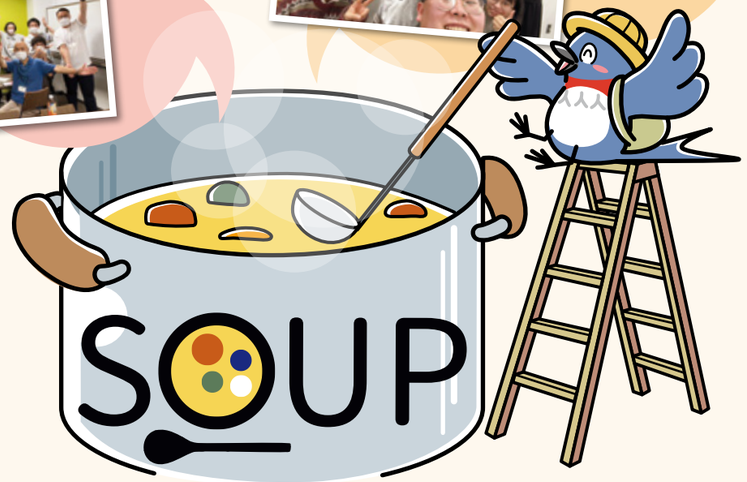
吹田市の高齢者施設で留学生と一緒に英会話教室を開いています。高齢者の方とコミュニケーションを取りながら楽しく英語を学んでいます！3か月に1回ほどの開催です。



ジェネ活

若者から高齢の方までが楽しく交流するジェネレーションを超えた活動をしています！（略してジェネ活です。）グローバルビレッジ高齢者住宅、伊丹市生涯学習センター、浜松市舞阪協働センターなどで開催しています。





Share Our Unique Perspectives

映画

人科内で参加者のおすすめの映画を一緒に鑑賞するイベントです。お菓子を食べながらゆっくりおしゃべりするラフな会です。



ペラりんこ

ゲームやカジュアル／アカデミックなディスカッションを通して、実際に使える英語を身につける活動です。お互い英語学習者同士なので、つたなくてもまずは英語で話してみることから始めています。



人科の外でも！大学内での国際交流





B.S.P. は、大阪大学の日本人学生と留学生との交流を促進し、学生同士で“家族”のように助け合える関係づくりを目指している組織です。豊中、吹田、箕面キャンパスで開催しています。
留学生向けのさまざまなイベントを企画・実施しており、B.S.P. のメンバーも随時募集しています。国際交流を通じて、いろいろな国・地域の学生とつながり、互いの文化や価値観を学び合うことができます！



多言語カフェは、外国語でのおしゃべりを楽しみながら会話力向上をめざすイベントです。場所は豊中で、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語、朝鮮語（韓国語）の６つの言語を中心に開催しています。言語、文化、習慣など様々なトピックについて話し、異文化交流を楽しみたい方にオススメです！

詳しくは
こちらをチェック！

詳しくは
こちらをチェック！



人科国際交流室は年 2 回ほど国際交流パーティーを開いています。ご飯やスイーツを食べながら人科の留学生や人科生が楽しくおしゃべりするイベントです。他分野の学生や教職員の皆さんとも交流ができます！人気のイベントで開催日には大行列ができるほどなんです！詳細は国際交流室まで！



人科の先生方からのメッセージ

人科には、国際的な経験をもつ先生方がたくさんいらっしゃいます。
留学などを考える際には、相談にのってもらうと良いかもしれません。

福岡まどか先生

社会学科目
人類学グループ



私が専門とする民族音楽学では、音楽を習得し、音楽の生み出される現場に立ち会う調査が重視されています。これは人類学で重視されている参与観察と同じ考え方です。このような考え方に基づき、私も学生時代に 2 年2か月にわたってインドネシア・バンドンの国立芸術大学舞踊専攻科に留学し、ダンスや音楽を学びました。今となってはもう若い頃のように素早く動けませんが、それでもこの時の体験はいまだに身体の中に残っているようです。またこの時期に一緒に学んだ同期の友人たちは今でも現地に行くと会って語り合う大切な存在です。学びの経験、人間関係の構築など留学で得られることは多くあります。現地の空気を感じ、風景を見て、言語を習得し、人々とともに過ごすことは、広い視野や柔軟な考え方を身につけることにもつながり、その後の人生を生きていく上でも大事な経験になると思います。

太田貴大先生

共生学科目
グローバル共生学講座
コンフリクトと共生



留学はコスパ・タイパのよくない活動だと思います。言葉も伝わらないなかで人並みな生活をするためにはとにかく時間も労力もかかるし、最終的に自分が満足するような結果が得られないこともしばしばです。私自身もイギリスの修士課程に１年間留学した時は、英語があまりできないことも、超がつくほどの円安だったこともあり（瞬間風速で 1 ポンド 250 円）、今の為替レートならもう１回留学して、もっとコスパよくできたのになあ、と思ったりします。

一方、あれから２０年近くたった今になって思うのは、パフォーマンスなどというものは、短期間だけで評価できるものではないし、自分が思っているパフォーマンスの評価軸なんて限定的な文脈でしか通用しないということです。月並みな表現ですが、当時は無駄だとおもったことも、長期的にみればかけがえのない経験や人脈になっています。地域学の格言、「ないものねだり」より、「あるものさがし」です。

口数の少ないオタクなイギリス人同級生は、ホスピタリティのかけらもなく、当時そんなにうちとけたわけでもないですが、今でも（今だからこそ？）研究に関する熱いやりとりをしたりします。英語圏の大学の厳しい学習環境をともに乗り切ったノンネイティブの同級生たちとは、今でも公私ともに仲良くしています（これは、留学あるある）。何かと批判されがちなイギリスの食文化についても、現地で生活して現地のひとたちの感覚を少しでも感じられたからこそ、自分なりの視点で擁護？できるようになったと思っています。そうはいっても、人科生の皆さんはきっとポテンシャルもあるでしょうから、少しは異国の環境で、何かに抗ってみて、がんばってみることをお勧めします。ということで、最後に、受け売りで恐縮ですが、マレーシアでお会いした JICA 青年海外協力隊の方から教えてもらった海外活動する際の心構えをお伝えして、この説教じみた寄稿文を閉めたいと思います。『あせらない』、『あてにしない』でも決して『あきらめない』。皆さんのコスパの悪い留学生活が、実りの多いものになることを願っています。

中井好男先生

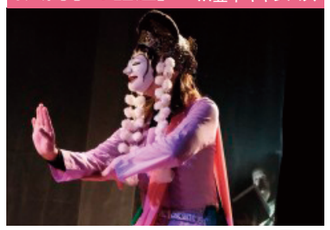
共生学科目
未来共生学講座
共生の人間学



さあ、海外へ！と意気込む皆さんにとっては、出鼻をくじく話かもしれませんが、大切な気づきを与えてくれた経験として、あえて共有したいと思います。
はるか昔、社会人になって間もない頃、私はワーキングホリデー制度を利用してオーストラリアに渡りました。TAFE の語学学校や専門学校に通いながら、英語を学び、異文化での生活を楽しんでいました。食文化や人との距離感など、日本とは違う環境に寂しさを感じることも少しはありましたが、自由で楽しくて充実した日々を送っていました。
ところがある日、学校に行く途中で、「日本語がわからなくて困っている」と声をかけられ、通訳を頼まれました。何の疑いもなくついて行ったところ、気づいた時には時すでに遅し。大勢に囲まれ、金品すべてを奪われてしまいました。強盗でした。犯人は韓国系の男性グループでしたが、怒りに震える私のために、ルームメート（彼らもコリアンでした）が必死で犯人を探してくれました。
実は私はコリアタウンで育ち、子どもの頃から、差別される韓国・朝鮮系の友人たちと、差別する日本人の大人や友人たちの両方を見てきました。そんな中で起きたこの事件は、「こんなところに来てまで、歴史の問題に巻き込まれるのか」と悲しくなる出来事でした。
「差別はいけない」と頭で分かってはいながらも、“日本人性”や”特権性”がわたしの中にも渦巻いていることに気づかされました。善悪の単純な図式では語れない、複雑で痛みを伴う現実。あの事件は、そうした自分の内面を突きつける出来事でもありました。この経験を通して、私は単なる異文化交流を超え、人と人とのぶつかり合いの中で、歴史の重みや自分の立ち位置を顧みるようになりました。ちなみに、ルームメートとの友情はその後さらに深まったことは言うまでもありません。
海外で学ぶということは、語学力を磨くことだけではありません。そこには、他者と出会い、自分自身と出会い直す過程があります。その出会いの中には、痛みや葛藤も含まれています。しかし、それを避けずに受け止めた先にこそ、「本当の学び」があるのだと思います。

2025年に取れる授業

「人間学の話題」 in豊中キャンパス



福岡先生

東南アジアの上演芸術を題材にした人類学の授業です。東南アジア芸術における多様性、物語世界、音楽、舞踊、楽器などについて学び、人類学的視点で芸術を理解する基礎を身につけることができます。芸術に興味のある人はぜひ！

「コンフリクトと共生Ⅱ(a)」 in吹田キャンパス



太田先生

自然環境共生において重要なテーマである生態系サービスについて学ぶ授業です。生態系サービスの評価や分析、政策応用までを幅広く扱います。ボードゲームを通じて理論内容を実践的に体験および考察することもします。自然環境との関わりに興味がある人はぜひ！

「共生の人間学Ⅰ(障害者・障害児心理学)」 in吹田キャンパス



中井先生

人々の共生を考える上で重要なことばとその活動について学ぶ授業です。授業では資料や質的研究を用いた事例をもとに、マイノリティの生きた経験を理解するとともに、その事例を通して共生社会の実現に必要な方策について検討します。自己理解と他者理解に興味のある人はぜひ！